

CONTENTS

- 特色GPとは?
- 学長・学部長あいさつ
- 経済学基礎知識1000題とは?
- 選定理由・これまでの取組
- 教育効果を上げる工夫
- 自学自習システムの活用
- 自学自習システムの有効性と成果
- 学習の流れ・実際の画面を見てみよう!
- 特集1「進化する自学自習システム」
- 特集2「政策学基礎知識1000題」
- 特集3「フレンテラーニング」授業体験
- 教員VOICE
- 教員から見た経済学基礎知識1000題
- 学生VOICE
- 学生の利用方法・利用成果
- 2007年度 活動内容
- イベント情報
- イベント開催報告
- 今後の展開
- お問い合わせ

特集1「進化する自学自習システム」

インタビュー 本学経済学部 児島 完二 准教授



児島 完二(くじま かんじ)
経済学部准教授。1994年名古屋立大学院経済学研究科博士課程退学。担当科目「パソコン統計」「情報経済論」。名古屋学院大学講師を経て現職。主著「Webサイトの動向からみる自治体サービスの新展開」。「経済学基礎知識1000題」による学部教育の標準化と質保証(共著)他。

- 第1回 導入後の変化
- 第2回 新たな活用法
- 第3回 今後の可能性について

第1回 導入後の変化

組織的な取り組みが浸透

自学自習システムそのものは2002年にスタートしました。最初はシステムだけを作り、そこに先生方が作った問題を載せ、うまく活用できるかどうか試してみようという実験的な取り組みでした。その後、2004年に基礎科目を中心とした「経済学基礎知識1000題」がスタートし、2005年には経済学部の教材として完成しました。そして、2006年の特色GP選定から1年が過ぎた今年「経済学基礎知識1000題」の組織的な取り組みが強くなってきていることを実感しています。



「経済学基礎知識1000題」がスタートした当時は、経済学部の教授会で「できれば定期試験で「経済学基礎知識1000題」から2題くらいを出題してください」とお願いして活用していただいていた。それが今では、先生方が独自の工夫を凝らして積極的に利用しているという声も、あちこちから聞こえてくるようになったのです。たとえば、本来5択式である「1000題」をアレンジして穴埋め問題として出題したり、本試験で惜しくも合格を逃がした学生に「1000題」で補習を行ったり、また「1000題」を解くことを、試験を受けるための前提条件とするなど、さまざまなバリエーションが生まれており、先生方が工夫しながら楽しんで活用されているという手応えを感じます。

学習意欲のある学生が増え、学力向上にも成果

学年	科目	合格者数	合格者率
1年	経済学基礎知識1000題	100	95.0%
	経済学基礎知識1000題	100	95.0%
	経済学基礎知識1000題	100	95.0%
	経済学基礎知識1000題	100	95.0%
	経済学基礎知識1000題	100	95.0%
	経済学基礎知識1000題	100	95.0%
	経済学基礎知識1000題	100	95.0%
	経済学基礎知識1000題	100	95.0%
	経済学基礎知識1000題	100	95.0%
	経済学基礎知識1000題	100	95.0%
2年	経済学基礎知識1000題	100	95.0%
	経済学基礎知識1000題	100	95.0%
	経済学基礎知識1000題	100	95.0%
	経済学基礎知識1000題	100	95.0%
	経済学基礎知識1000題	100	95.0%
	経済学基礎知識1000題	100	95.0%
	経済学基礎知識1000題	100	95.0%
	経済学基礎知識1000題	100	95.0%
	経済学基礎知識1000題	100	95.0%
	経済学基礎知識1000題	100	95.0%
3年	経済学基礎知識1000題	100	95.0%
	経済学基礎知識1000題	100	95.0%
	経済学基礎知識1000題	100	95.0%
	経済学基礎知識1000題	100	95.0%
	経済学基礎知識1000題	100	95.0%
	経済学基礎知識1000題	100	95.0%
	経済学基礎知識1000題	100	95.0%
	経済学基礎知識1000題	100	95.0%
	経済学基礎知識1000題	100	95.0%
	経済学基礎知識1000題	100	95.0%
4年	経済学基礎知識1000題	100	95.0%
	経済学基礎知識1000題	100	95.0%
	経済学基礎知識1000題	100	95.0%
	経済学基礎知識1000題	100	95.0%
	経済学基礎知識1000題	100	95.0%
	経済学基礎知識1000題	100	95.0%
	経済学基礎知識1000題	100	95.0%
	経済学基礎知識1000題	100	95.0%
	経済学基礎知識1000題	100	95.0%
	経済学基礎知識1000題	100	95.0%

先生方が積極的に「経済学基礎知識1000題」を活用することによって、学生が学習利用する機会も増えてきています。利用する機会が多いということは勉強しているということですから、導入前よりも導入後のほうが学生の学習時間が確保されていますし、学力も確実に向上していると思います。

学生たちは高校までで、受験勉強や定期試験といった反復練習中心の学習方法に慣れてきています。それが大学に入学したとたん、これまでとはまったく違った90分の授業を10数回受け、試験に臨むわけです。すぐに大学のシステムに馴染むことは難しいでしょうか。そういう点で「1000題」の活用法は今の学生に非常に適していると思います。学習する範囲を示し、実際に問題に取り組みさせることで、彼らにとって、より学習し易くなるのではないのでしょうか。また、ランキング機能が付いているというのも、学習意欲を高める効果も上げています。

[このページのトップへ](#)

第2回 新たな活用法

CCS(キャンパス・コミュニケーション・システム)をベースにより優れた効果を発揮

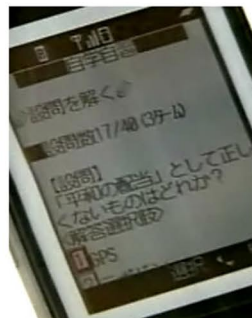


「経済学基礎知識1000題」の活用が広がっている大きな理由の一つに、学生と教職員を結ぶ教育ネットワークシステムCCS(キャンパス・コミュニケーション・システム)に組み込まれていることが挙げられます。単に反復学習を目的とするeラーニングだけでは、ほぼ難くはありません。ところが、本学の「1000題」は事務局が管理・整備しているデータベースとリンクしているという点で優れており、多様な活用を可能にしているのです。

その好事例が、私たち教職員だけが見ることのできる教員画面です。教員画面には自分が担当するすべての科目に専用ページ(科目情報)が用意されています。CCSの科目情報にある、履修者名簿から学生一人ひとりの学習履歴や成績を確認することができます。ですから授業の出欠や試験の結果だけでなく、見えないところでの学生の努力も評価することができるのです。また、個別の連絡にも利用できるのです。たとえば伸び悩んでいる学生には個別指導をしたり、学習のアドバイスをするなど、学生全体の学力の底上げにも役立っています。

携帯電話や携帯ゲーム機でも「経済学基礎知識1000題」を利用

今年の1月から、携帯電話でも「経済学基礎知識1000題」を利用できるようになりました。学生の中には、パソコンを立ち上げるのが面倒という声もあったんです。家にインターネットがないので勉強できないという学生も。基本的に人間というのはワガママで面倒臭がり屋なんです。たとえば1時間の待ち時間があっても「じゃあパソコンを立ち上げて勉強しようか」とはいかない。それで、もっと時間を有効に使う手段として携帯メニューを導入したんです。



また、ニンテンドーDSやその他のインターネット接続できる携帯型ゲーム機で「1000題」が利用できることが分りました。きっかけは、名古屋キャンパスの開設です。無線LANが導入されることを知っていましたので、遊びのつもりで試してみたら、CCSにアクセスできました。これなら教材ほどでつまがるので携帯電話と同じように手軽ですし、しかも、パソコンと同様一處に多くの問題を解くことができる。まさにゲーム感覚で手軽に楽しく勉強できるわけです。



[このページのトップへ](#)

第3回 今後の可能性について

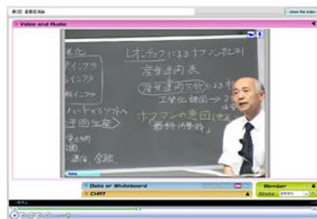
TIESとのコラボレーションや動画配信の準備に着手

奈良の帝塚山大学では「TIES」というeラーニング教育システムを開発・運用しています。高等教育関係者であれば誰でも無料で参加し利用することができるというもので、本学も、この「TIES」とコラボレーションを試みています。2006年12月に開催した特色GP選定記念シンポジウムのライブ配信も「TIES」から見ることができました。また、今年6月に白鳥学園で開催した「特色GP公開講演会2007」では「TIES」のシステムを利用して瀬戸キャンパスと名古屋キャンパスの双方向通信を実施しました。このようなキャンパス間をつないだ動画配信をし、授業にも導入できないかを模索しています。今後は、学習するうえでより便利に、よりわかりやすく、問題の解説をWebや携帯電話に動画配信したいと考えています。



「TIES」に関する情報はこちら(<http://www.ccties.org/>)

大学生の質の保証をめざして



「経済学基礎知識1000題」を発展させた大きな構想としては、経済学のアチーブメントテスト※を作りたいと思っています。現在でも経済学検定というのがありますが、学部学生にとっては難しく、活用しづらいレベルになっています。ですから、経済学部を卒業する学生として身につけておくべき専門基礎を範囲とする常識テストのようなものを作れないかと。これは本学だけで実現できることではありません。同じように学生指導に熱心な大学や教員と一緒に作り上げる必要があります。この構想の実現だけに限らず、地域を越えてさまざまな大学と提携し、教育効果を高め、大学生の質の保証・向上させていきたいですね。

これから大学を受験する学生さんたちにも「名古屋学院大学はこんないい授業をやっています。どうぞ、ネットから見てください。試してください。」と伝えられるよう、さらにシステムを整えていきたいです。

※アチーブメントテスト = 学習した結果を客観的に判定するテスト、学力検査のこと

[このページのトップへ](#)

